



よいごのあてっこ それあそび  
川あそび 梨の花の咲く頃  
青い庭 お池の鳥  
蟹の母さん お人形  
はるかの学校 ランドセル  
梅のつぼみ 浅い春  
みどりのそよ風  
お人形 はるのよつちえん  
お池の鳥 グッティ・グッバイ  
蟹の母さん ゆめ  
お人形 朝の雪道  
青い庭 蓮の花  
川あそび 霜のどんどん橋  
梨の花の咲く頃 月夜の演習  
青い庭 柿のたね 絵日傘  
蟹の母さん 七つのお祝い  
お人形 かなづちトントン  
お池の鳥 ぱつとり  
蟹の母さん ペダルをふんで  
お人形 僕も大きくなつたら  
お人形 おすなばあそび

おそいお月さん 叫られて  
ドンドコシヨ 薙きり  
ゆきあそび  
秋草野花  
ピンポンポン  
小鳥の音楽会  
グッティ・グッバイ  
み空の鏡  
春の日あびて  
宝の箱  
かなづちトントン  
月夜の演習  
絵日傘  
霜のどんどん橋  
柿のたね  
ちよがみおつて  
七つのお祝い  
ぱつとり  
ペダルをふんで  
僕も大きくなつたら  
おすなばあそび



さい  
12歳のころ

## どうようしじん 童謡詩人 し みづ 清水かつら (本名・清水桂)

"池のある家"にて(二十八歳のころ)

一八九八年(明治三十一年)に東京の深川に生まれた清水かつらは、

けい かしょうきょうがうこう へ かん だ しょうかく しんばうしゃ  
京華商賈学校を経て、神田の小学新報社で

ばっし し しょうじゅごう へしゅう しごと  
雑誌「少女号」などの編集の仕事をしながら、

みづか そんくく かつどく つこ くつ な さひん  
自らの創作活動を続け、「靴が鳴る」などの作品を

ごうし ほつぎょ  
この雑誌に発表しました。

たいしょう かんどうだいしんさい ひかい かさい うしな  
一九三三年(大正十二年)の関東大震災の被害にあい、家財を失ったため

さいたま けいさき あ だら ぐくにい くわら けい ほ じつ か いま わ こう し み よ  
埼玉県北足立郡新倉村の継母の実家(今と和光市)に身を寄せます。

しら こ じ ふく じ ちか  
その後白子地福寺近くの「池のある家」に

やく かん あと しら こ かわ うつ す  
約十五年間暮らした後、白子川のほとりの家に移り住み、

しらわ さい な  
一九五一年(昭和二十六年)、五十三歳で亡くなるまで

どうよし じん さく こひん つく つこ  
童謡詩人としてたくさんの作品を創り続けました。

だいひょうさく しか  
代表作には「叱られて」「あした」など、

めぐ しょうねん じ たい ふ ほ あい もと さく ひん  
恵まれなかつた少年時代の父母の愛を求めた作品や、

くづ な すがり かう こう  
「靴が鳴る」「雀の学校」「みどりのそよ風」など

なります しら こ でく えん ふうけい し せん  
成増から白子にかけての田園風景や自然を

うた さく ひん  
歌つた作品があります。

